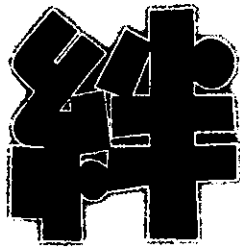


まつかぜ

2012年5月 第32号

平成24年度 行正丸出港！

○会長 ○副会長 ○事務局長 ○総務書記 ○会計1 ○会計2 ○会計監査		行正龍昭 井野昭子 新保晃 豊島智紗子 齋藤立子 當山順子 橘田憲次	松風台自治会新役員 7名決まる！
※ 編集後記	◆ 転出入会記録	総務書記挨拶 豊島智紗子	事務局長挨拶 新保晃
		副会長挨拶 井野昭子	会長挨拶 行正龍昭
			目次



就任のご挨拶

会長 行正龍昭

第一志望は男だから体育部長、第二はパソコンが好きだから会計だったはずで
す。しかし、新班長会での時間経過とともに会長をやらざるをえなくなりました。
そこでは「自分の好きなことは一生懸命やるが、人のためにやるのは不得意です」
と言いました。
会社を退職した時、「さあ、これからは会社人間を卒業し、地域に入ってゆこう」と決
心したものでした。
入りやすいのは自分の好きなことからと思い、ゴルフ、囲碁の会に入りました。
私にとってこれらだけが地域活動でした。
今回、自治会に入ってみて任期がスタートする前なのにやることの多さに戸惑いま
した。
また、不思議と市の広報とか新聞とかテレビ番組などの関連記事が目につくよう
になりました。

NHK の番組で今の地方自治組織に必要なのは
若者、よそ者、バカ者ということでした。
前の二つは新しい風であり、幸い新班長の中にも何人か入っています。
最後は一生懸命ということでしょう。
まだ一カ月もたっていませんがなんとなく分かるような気がします。

日本のいろんなところから集まってきた松風台第一世代はことあるごとに自分ら
の育った故郷に帰ったものです。
現在では、帰る必要もないでしょう、終の棲みかになりました。
産卵のため生まれた川をさかのぼる鮭のように松風台で育った子供が家族で故郷
に帰るのを楽しみに、夏まつりに合わせて帰るようにもなりました。

自治会の仕事は多量でたしかに大変ですが、その分おかげで多くの人達との出
会いがあり、知り合えるよろこびもあります。
確実に人の輪がひろがってきたと実感しています。

今年一年は好きなことを控えめにして、バカになって尽くす覚悟です。
「やって良かったなあ」という一年にしたいと思っています。

今年の自治会のモットーは
「日ごろのお付き合い、交わすあいさつが自分を救う」
災害だけではありません、生き方もです。

松

ご挨拶
副会長 井野 昭子

24年度自治会の副会長を受けさせていただきました井野と申します。

与えられた仕事を一つ一つお手伝いさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

わが街の37年と
心やさしきひとたち

事務局長 新保 晃

風

自治会は、はじめからあったものではありません。自治会をつくったひとたちがいたのです。なにもないところから自治会をつくったひとたち、身近な問題を問題としてとらえ、みずから行動をおこした一握りのひとたちがいたのです。

今年自治会ができて37年目です。1974年前後に入居したひとたちにとってその頃の松風台は「陸の孤島」でした。10ヘクタール（3万坪）の広い開発宅地に「灯りがついている家は10数軒程度・・・（自治会員水知晴美談）」、周辺からもちこまれ、捨ておかれたゴミの山に立ちすくみ、これでは暮していけないと4人（水知晴美、姉川陽子、座間光子、若林道子）が立ち上がりました。「4人」はゴミ収集車に来てもらおうと「市」や近隣地区にはたらきかけをはじめました。空き缶、空きビン拾って業者に売って活動資金をつくりました。すべてはここからはじまったのです。

1年近くかけて「4人」はゴミ、街路灯、鶴が台バリケード、児童（当時はみんな若く、こどもも小さかった）の学区割、防犯などの問題解決をもとめて市役所に出向いて交渉をかさねる一方、住民の理解と協力を得ようと手さぐりで方法を考えだし、公園にでてラジカセとハンドマイクをつかって住民へよびかけました。自治会の基盤がここに芽ばえました。初代会長に60歳台（当時）のジェントルマン（坂口 遼）をむかえ、その後もメンバーの私宅を開放して（初代の自治会館建設はその2年後）打ち合わせをかさね、1975年に自治会を発足させました。

あれから37年、自治会は成長し、その存在は浸透して松風台の暮らしにおいて表面下で根をはってそれを支えています。目に見えるもので変ったのは街なみでしょう。建替え・宅地分割が進行し、じわじわと街なみの表情を変えてきました。いまのうちになんらかの公的とりきめをつくって街なみの維持につとめたい、改築、新築等による隣同士のマサツをすこしでも減らし融和な関係をつづけたい、これからも「松風台らしさ」をのこして良好な宅地としての評判を保ちたい、ということからこれも一握りのひとたち（小山博美、越智 薫ほか）を中心とするグループが立ち上がりました。

6年前のことです。このグループもまた、37年前の「4人の女性たち」と同様手さぐりで活動をはじめました。自治会に協議の場をもとめては丁重にあしらわれ、積石を一つ積み上げてはくずされるをくりかえし、徒労感におそわれることもあり、自治会とのあいだの細い糸を後生大事にまもりつづけるいっぽうでは、何度も「市」との協議をかさね、その信頼をえて連携を深めました。

目前の課題の消化に迫られる自治会指導者への説得に精力をつかいはたしながら、この6年間で10回におよぶ住民集会を開き、4回にわたるアンケート調査を実施しました。そのために住民のなかの無関心なまなざしにも語りかけをつづけ、冷たい視線にも笑顔で応えてきました。地域の中の何人かのひとたちが善意と錯

覚による批判を加えたりもしました（わたしも加えた一人です）。それらが重なってグループのなかには心労のあまり心身症におちいりかけたひともいました。

「対話と融和による問題解決で住みよいまちづくりを」とめざしたグループの活動は、その後、自治会指導者の共感を呼び、自治会正規活動の一環にむすびつけられました。

自治会員の多くから支持もあつまり、今年度の総会で議案書の採決にこぎつけ「協定」成立をみました。この日を迎えた関係当事者たちの胸のうちはいかばかりであろうと想像にあまるものがあります。

自治会として今後は「協定」にいのちを吹きこむべく「運営委員会」を発足させて「まちづくり」を軌道にのせたい。この「協定」の精神を理解して運営にたずさわってみたいという意欲あるひとがあらわれることを期待します。＝2012年4月24日記述

（本文において2005年度自治会発行「わが街の30年」より1部を引用、参照しました。また、敬称は省略しました。）



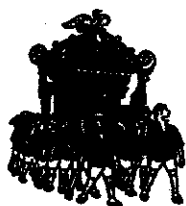
ご挨拶

総務書記 豊島 智紗子

班長は今回で三回目ですが、このような役目は初めてです。大変緊張しています。

高齢化してきた松風台ですから、自治会活動は簡素化されてきているのではと思っていましたが、逆に避けられない課題が次々生じ活動は活発になっていっていると感じています。

最後まで無事に活動に付いていけますよう祈るばかりです。よろしくお願い致します。



【松風台転入記録】

番地	氏名	転入日
		4月1日
		4月1日
		4月1日
		4月1日



【編集後記】

2012年度文化広報部の業務は4月1日から始まり、班長ボックスのラベルの張り替え、時刻表の配布、茅ヶ崎市の広報誌の配布、そしてこの「まつかぜ」の発行。

今年は佐藤、長尾、杉本、間瀬、岡村、柳澤の6名でお互いに協力しあいながら頑張っております。

